

## 産業連携ネットワーク 第1回幹事会 議事概要

|      |        |  |
|------|--------|--|
| 開催日時 |        | 2012年1月31日(火) 14:00~16:00  |
| 開催場所 |        | 農林水産省 第2特別会議室  |
| 出席者  | 幹事     | 株式会社三菱総合研究所、財団法人食品産業センター、社団法人日本経済団体連合会、社団法人日本農業法人協会、主婦連合会、全国消費者団体連絡会、全国森林組合連合会、全国農業会議所、全国農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会、日本商工会議所 |
|      | 事務局    | 農林水産省食料産業局産業連携課  |
|      | オブザーバー | 経済産業省地域経済産業グループ地域経済産業政策課   |

### 議事概要

#### 1. 幹事会の構成について

- (事務局) 現在の幹事会は設立時に事務局が構想したもの。第1回幹事会の開催にあたり、幹事の構成について意見があれば伺いたい。
- (幹事) 町村段階も重要であり、商工会の団体の参加が必要ではないか。また、今後の地方展開に向けて、地方の経済団体などの参加も必要ではないか。
- (幹事) 全国団体として生協の団体の参加が必要ではないか。
- (幹事) 林業は、伐採された丸太の加工は避けて通れないので、木材加工の団体の参加が必要ではないか。
- (事務局等) ご提案の全国団体については、会員の意向を確認するとともに、関係部局の意見も踏まえて決定したい。地方単位の団体については、地方ブロックのネットワークに加入いただき、情報共有していく。

#### 2. 産業連携フォーラムの設置について

- (事務局) これまでの事務局集約配信型の運営から、会員が事務局を介さずに直接情報発信や意見交換を行うことができる仕組みを導入し、会員間で連携関係が自動的に結ばれていく運営にしていきたい。そのため、電子掲示板や会議室の機能を有した産業連携フォーラムを設置したい。
- (幹事) フォーラムの設置時期や、フォーラムへの掲載内容の事務局からの発信頻度は。
- (幹事) 利用には一定のルールが必要ではないか。
- (幹事) 掲載はビジネススペースも対象か。また社員の農業体験などの連携相手の募集等は。
- (幹事) 商品の売買など利害関係が絡むものは踏み込みすぎではないか。
- (事務局等) フォーラムは早ければ2月、遅くとも年度内には設置したい。フォーラムに掲載された情報は、一定の頻度で事務局が会員へメールで配信を考えている。  
ネットワークの趣旨に合致しない内容は掲載しないなど、一定のルールは策定するが、自由な交流を促進するため、厳しく規制することは考えていない。  
ネットワークは会員のビジネスの促進が目的であり、フォーラムでマッチングされることは望ましいが、具体的な商談までフォーラム上で行われることはないのではないかと。規約の責任範囲にあるように、個々の会員間の商談等は、各会員の責任で行うこととなっている。

#### 3. 部会等のあり方について

- (事務局) 意向調査から会員の関心は多岐に亘るため、現時点で事務局・幹事会が特定の課題に集約し、限定された内容の部会を設置することは困難であり、会員間の交流や意見交換の中で検討すべきテーマがあればそれが集約される仕組みが必要と考える。そのため、産業連携フォーラムを活用し交流会を開催したい。  
会員からの提案を基本とするが、当初は事務局からも輸出やバイオマス、経営者育成などのテーマを提示する。

- (幹事) バイオマスや再生エネルギーなどは地方や消費者の関心が高い。地方に場があるとよいのではないか。
- (幹事) 中央で議論してよいのか。地方との関係は。
- (幹事) 食料産業クラスターや農商工連携の協議会等との関係は。FCPとも連携すべきではないか。
- (事務局等) 地方ブロックにもネットワークの立ち上げを進めており、中央の動きを地方に伝えながら、地方でも開催していく。中央の交流会から気運が高まり、地方でプロジェクトを実施するなどもあり得る。FCPや食料産業クラスターなど既存の活動ともテーマに応じて連携していく。

#### 4. プロジェクトのあり方について

- (事務局) プロジェクトは各会員が自ら実施していくものであり、それぞれ熟度や望ましい公表時期などが異なるため、幹事会でのプロジェクトの選定は行わないこととしたい。産業連携フォーラム設置後は会員が自ら適時提案ができるが、それまでは事務局が仲介し、既に提案を受けているものを含めて、2月から紹介を始めていきたい。
- (幹事) プロジェクトの成功、失敗のフォローアップや成功事例の共有など横の展開も必要ではないか。
- (幹事) 表現としてプロジェクトではなくマッチングではないか。
- (幹事) 交流会、部会との関係は。
- (幹事) JA全農の県本部と共同で、当団体の会員企業と地域の農業法人等との交流会を行った。連携やビジネスが生まれるのはこれからだが、イメージは分かる。
- (事務局) プロジェクトは、産業連携ネットワークが行うプロジェクトではなく、会員が実行するプロジェクト。ネットワークを活用してマッチングされ会員が実行するプロジェクトを意味している。
  - 交流会は、検討テーマや事業の内容等が明確化する前の自由な意見交換の場であり、そこから部会やプロジェクトへの発展を図るもの。
  - プロジェクトの進捗状況の報告を求めるなどフォローアップを行い、情報の共有化を図っていきたい。

#### 5. その他について

- (事務局) 本日のご意見を踏まえ、幹事の追加やプロジェクトの選定等について規約及び運営要領の改正が必要となるため、調整後に改正を行う。
  - 年に数回程度、会員から進捗状況の報告等を行える総会を開催したい。
  - 地方ブロックネットワークについては、中央の取組も踏まえつつ、現在各農政局等で立ち上げを進めている。
- (幹事) 中央と地方を分ける意味はなにか。一体化してはどうか。
- (幹事) 産業連携フォーラムは地方には導入しないのか。
- (幹事) 幹事会の開催頻度はどうか。幹事会でやるべきことは。
- (事務局) 交流、意見交換など、地域の実情に合わせてよりきめ細かに対応するため、中央と地方で複層階がよいと考えている。情報は共有化していく。フォーラムの地方への導入は、中央での運用と地方の状況を見ながら考えていく。
  - 幹事会は、運営方針の変更や部会の設置など諮るべき議題ができたときに開催するが、年に数回のイメージ。総会の前などに開催したい。交流会やプロジェクトのフォローアップ、助言等をいただくこともある。

以上